



口絵の解説

蘭齋画譜

著者の森蘭齋は、越後の新井で生まれ、大坂・江戸で活躍した画家で、中国清代の画家沈南蘋しんなんびんの唯一日本人弟子である熊斐（神代彦之進）を師とする。

本資料は、蘭部と竹部が各4巻4冊の全8冊から成り、豊富な図版とともに蘭と竹を例に、様々な描き方の手法が解説されている。また、木村蒹葭堂、中井竹山、福原五岳などの文人墨客の漢詩文も数多く寄せられ、蘭部の巻一には、伊藤東所（伊藤東涯の三男で祖父仁斎の開いた家塾である古義堂の継承者）、片山北海（漢詩結社である混沌社の創設者）の序文が記され、交遊に興味深いものがある。